

平成 29 年度第 3 回立川市生涯学習推進審議会 会議録

開催日時 平成 29 年 10 月 23 日（月曜日） 午後 7 時 05 分～午後 9 時 10 分

開催場所 立川市女性総合センター（AIM）5 階第 2 学習室

出席者 [委 員] 朝岡 幸彦 会長 佐藤 良子 副会長

眞壁 繁樹 委員 梅田 茂之 委員

比留間 敏郎 委員 竹内 英子 委員

楢崎 茂彌 委員 難波 敦子 委員

萩本 悦久 委員 宮本 直樹 委員

[事務局] 五十嵐 誠 生涯学習推進センター長

諸井 陽子 管理係長

鳥野 純一 管理係員（記）

次第

1. 開会
2. 立川市生涯学習推進審議会会長 挨拶
3. 報告事項
 - (1)平成 29 年度第 2 回立川市生涯学習推進審議会 会議録について
 - (2)行事等の報告及び今後の予定について
 - (3)文部科学省の組織改革について
4. 協議事項
 - (1)東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について
 - (2)東京都市町村社会教育委員連絡協議会表彰候補者の推薦について
 - (3)諮問に対する答申について
 - (4)立川市第 5 次生涯学習推進計画平成 28 年度取組状況の進捗評価について
5. その他

配付資料

1. 平成 29 年度第 2 回立川市生涯学習推進審議会 会議録（案）
2. 行事等の報告及び今後の予定について
3. 東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会 開催要領等
4. 平成 29 年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会 表彰候補者の推薦について（依頼）（都市社連協文書の写し）
5. 諮問に対する答申について（論点整理）
6. 進捗評価 各委員からのご意見（まとめ）及び会長コメント文案
7. 立川市第 5 次生涯学習推進計画 平成 28 年度取組状況の進捗評価表
8. 立川市第 5 次生涯学習推進計画 平成 27 年度取組状況の進捗評価表
9. 文部科学省の組織改革について（調査の依頼）（（一社）全国社会教育委員連合文書の写し）
10. 平成 29 年度学校支援地域本部事業について

会議内容

1. 開会

2. 生涯学習推進審議会会長挨拶

(会 長) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会（以下「都市社連協」という。）第 2 ブロック研修会に参加された方はお疲れ様でした。面白くしようという工夫が感じられ、来年も楽しみです。

このあとの 4. 協議事項 (3) と (4) は順番を入れ替えて議論したいと思えます。よろしくをお願いします。

3. 報告事項

(1) 平成 29 年度第 2 回立川市生涯学習推進審議会 会議録について

(事務局・管理係長) 資料 1 をご覧ください。各委員に事前にご確認いただき、修正希望はありませんでした。

(会 長) 会議中に気付いた点などあればお申し出ください。なければ承認といたします。
(会議終了までに意見等なし)

(2) 行事等の報告及び今後の予定について

(事務局・管理係長) 資料 2 をご覧ください。

①全国社会教育研究大会（北海道大会）（以下「全国大会」という。）は、都市社連協会長として朝岡会長が、立川市生涯学習推進審議会（以下「生涯審」という。）から任意で佐藤副会長が参加されました。

②都市社連協第 2 ブロック研修会は、都市社連協会長として朝岡会長が、生涯審から任意で 4 名の方が参加されました。

③都市社連協第 3 回役員会・拡大役員会は、都市社連協会長として朝岡会長が、都市社連協会計として佐藤副会長が出席されました。

今後の予定として、④関東甲信越静社会教育研究大会（静岡大会）が 11 月 16 日から 17 日にあります。生涯審から佐藤副会長が参加される予定です。

⑤都市社連協交流大会・社会教育委員研修会については 4. 協議事項 (1) で説明いたします。

次回の生涯審は来年 1 月 15 日を予定しています。

(会 長) 全国大会はいかがでしたか。

(副会長) たくさんの社会教育委員が参加していました。分科会では「地域を担う人材育成の在り方と社会教育委員のかかわり」をテーマに話し合いました。全国各地の様々な取り組みがとても参考になりましたが、社会教育委員は地域において他の役を多数兼ねていて、どの役を本当にやっているのかという人が多かったのが驚きです。地域の役としての仕事をたくさんやっているが、社会教育委員としての仕事は何か、と問うと「(自身の属性を生かして) 地域と関わってやっ

てきた」という人ばかりで、私の感覚とは少し違うのかなと感じました。社会教育委員の皆様の意気込みとやり方の豊富さに驚いて帰ってきました。

(事務局・管理係員) 私は事務局として随行し、分科会は副会長と違うものに参加しました。分科会のグループワークでは、事務局職員でひとつのグループを作っていたように、事務局視点からみた社会教育委員の課題を議論できたことはよかったです。全体を通して、もし近隣で実施されることがあれば、ぜひ皆さんにご参加いただきたい内容でした。

(会 長) 全国大会は行けば勉強になりますし、社会教育委員と交流するのはよいことですので、機会があればご参加ください。来年は青森だそうです。

(事務局・管理係員) 同日に開催された(一社)全国社会教育委員連合(以下「社教連」という。)総会について1点ご報告いたします。社教連会長から「寄附募集については、いったん平成30年7月までとし、その後はまた協議する」という旨の話がありました。

(会 長) 都市社連協では「寄附は委員個人の判断で対応する」こととしています。これまで様々な経過がありましたが、今回初めて終期が示されました。寄附は集まっているようですが、社教連の財政構造の見直し議論がなされていないようですので、このあたりの動向を見守りながら、寄附についてそれぞれで判断するのがよいかと思っています。

都市社連協第2ブロック研修会の感想はありますか。

(委員A) グループワークで昭島市、国分寺市、東大和市の方と一緒に。昨年の立川での研修会で一緒だった人もいました。身になる感じの楽しさがありました。

(委員B) 「昨年よりも面白く」という意気込みが感じられました。

(会 長) 年々良くなることを期待しています。

(3) 文部科学省の組織改革について

(事務局・管理係長) 資料9をご覧ください。文部科学省の組織変更について、社教連から情報提供及び調査の依頼がありました。3ページにイメージ図があります。主として「生涯学習政策局」を廃止して「総合教育政策局」に再編すること、生涯学習政策局の「社会教育課」と「青少年教育課」を廃止・統合して「総合教育政策局 地域学習推進課」に再編すること等が予定されているとのことです。この組織変更について、社教連から、都市社連協を含む各都道府県の社会教育委員連絡協議会に意見を求められました。都市社連協拡大役員会で議論し、生涯学習政策局及び社会教育課の存続要望を回答しました。

(会 長) 名称変更ではありますが、事実上、生涯学習政策局を解体する格好です。また、社会教育課の再編により「社会教育」という言葉が(組織名から)無くなります。これは単なる文部科学省内の組織改革というよりは、(生涯学習・社会教育の)質が変わってしまう可能性があります。文部科学省は教育政策の企画・立案・管理・運営等を行う官庁ですので、軽々な再編は好ましくなく、歴史的な経過も踏まえてもっと議論した方がよい、という趣旨の意見です。これは私も所属する日本社会教育学会の意見と同じです。

今回の組織改革では、博物館を文化庁に移管することも決めています。博物館を教育行政の場からいわば「文化財保護行政」ともいえる枠に移してよいのかは議論があるところで、かなり大きな組織改革であるとみることができます。

(委員C) これは一言でいうと、生涯学習が局から課に格下げされたということですか。

(会長) (総合教育政策局内に) 生涯学習政策課があるので格下げにも見えますが、「生涯学習政策局」が「総合教育政策局」になるということが大きな問題です。生涯学習を総合教育と言い換えるということですが、これらは概念が違います。同じように「社会教育」と「地域学習」も違います。このことから、名称の変更が名称の変更に留まらない可能性があるのが問題なのです。

かつて文部科学省の「社会教育局」が「生涯学習局」に名称変更された時に何が起きたかという、各自治体の部署名の多くが「社会教育」から「生涯学習」に変わってしまいました。研究者は同じ論理が働く可能性を危惧しています。

(委員C) 生涯学習は「自ら学習する」という考えですが、総合教育というと「教育させる」となり、発想の変化があるということでしょうか。

(会長) その可能性もあります。総合教育という言葉がどのような意味で使っているかにもよりますが、とりわけ「社会教育」という言葉が無くなることに危機感を持つべきだと思います。官邸に発足した「人生100年時代構想会議」も参考になるので時間があるときに調べてみてください。

4. 協議事項

(1) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について

(事務局・管理係員) 資料3をご覧ください。平成29年12月2日(土)に、たましんR I S U R Uホール(立川市市民会館)にて、開会は午後1時を予定しています。都市社連協が主催し、29年度会長市である立川市がホスト市として幹事を務めます。当日は生涯審委員の皆様にもご協力いただければと思います。司会、受付、誘導などがあります。当日9時30分からリハーサルを行い、流れや動きを確認します。生涯審委員の出席人数が少ない場合は事務局を増員します。

(この会議の出席者に、大会当日の出欠を確認)

(会長) 事務局は出席者の役割分担について検討し、改めて案内をお願いします。

(2) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会表彰候補者の推薦について

(事務局・管理係長) 資料4をご覧ください。立川市としても推薦を行いたいと考えています。対象は、都市社連協会員として5年以上の在任者です。生涯審委員の中では2名が要件を満たしています。1名は会長ですが、会長は都市社連協会会長として表彰する側であることなどを考慮し、辞退されています。もう1名は委員Bで、事前にご本人の了承を得ています。委員Bを推薦することについてお諮りください。

(会長) いかがですか。(異議なし)

(会長) では、委員Bを推薦します。

(委員B) (都市社連協の) 規程に従います。表彰はいつですか。

(事務局・管理係員) 4月21日(土)の都市社連協定期総会です。

(4) 立川市第5次生涯学習推進計画平成28年度取組状況の進捗評価について

(会長) 先ほど説明したとおり、(4)を先に議論します。

資料6をご覧ください。皆様のご意見を総合してコメント案を作成しました。13項目のうち半数程度のI-1-①からI-3-②まで議論したいと思います。一項目ずつ事務局がコメント案を読み上げ、ご意見をいただくようにしたいと思います。ではI-1-①「多様な運営主体による事業の開催」からお願いします。

(事務局・管理係長) (資料読み上げ)

(会長) このコメント案についてご意見はありますか。(ご意見なし)

(会長) では次のI-1-②「学びたい人が学べる機会の提供」についてお願いします。

(事務局・管理係長) (資料読み上げ)

(委員C) 表現の問題かもしれませんが、「高齢者や発達障害のある人、日本語を話せない人たちへの配慮も含めて、障害の特性に応じた」とありますが、高齢者などを「障害」という言葉にまとめてよいのでしょうか。違和感があります。

(会長) では「～への配慮も含めて、その特性に応じた」とするのはいかがですか。(異議なし)

(委員D) 「発達障害」と限定しているのは意味があるのでしょうか。

(会長) 委員意見の記述をそのまま採用していましたが、限定する理由は全くないので、単に「障害」でよいですね。(異議なし)

(会長) 次にI-1-③「高等教育機関や民間との連携強化」をお願いします。

(事務局・管理係長) (資料読み上げ)

(委員E) 案のとおりでよいと思いますが、本日、たちかわ市民交流大学市民推進委員会の企画講座で、若者の就労支援に取り組む団体と連携して、若者が講師となって、スマートフォンの講座を実施しました。引き続き次年度も、若者が市民推進委員会のボランティアの一員として参加し、能力を発揮して市民の学習に関わってもらえるよう話をしてきました。コメント案はこのような意味だと受け止めています。

(会長) 若者の参加については他の項目でも触れますので、またそこでもご発言いただけるとよいと思います。

高等教育機関や民間との連携強化ということで、各意見の考え方をまとめましたが、このキーワードは抜かないでほしいというのがあれば教えてください。

(意見なし)

では次にI-2-①「さまざまな交流の場の提供」事務局お願いします。

(事務局・管理係長) (資料読み上げ)

(委員F) 基本的に案のとおりでよいと思いますが、これまでの文案もそうですが、どうしてこういう内容にしたのか、各委員の意見をまとめた背景などをご説明いただくと意見を出しやすいと思います。

(会長) 委員の皆様のご意見はいい意味で多岐にわたっていて、一人ひとりの言われていることを、「現状をどう見ているのか」「良いところをどのように評価して

いるのか」「課題と感じているのはどこか」「どのような提案か」という4通りに分類しました。「さまざまな交流の場の提供」のコメント案の背景にあるのは、例えば「良いところ」は委員C、委員G、委員Hの肯定的表現をできるだけ素直にコメント案に入れました。委員Fの意見の冒頭や、委員Dの意見はごもつともで（課題と捉えることができるので）コメント案に反映させています。交流するだけで終わってはいけないということです。それでこれからどうするか、ということコメント案後半にまとめていて、皆さんの提案を拾いあげて整理しています。各委員でそれぞれ発言の背景が違いますから、まとめると抽象的になってしまうことはご容赦いただきたいと思います。

次にI-2-②「地域課題の共有化と解決に向けた学びの推進」をお願いします。

（事務局・管理係長）（資料読み上げ）

（会長）まず委員Fの最初の文言「地域活性化講座が定着しつつある」という話や、「地域学習館運営協議会と地域の繋がりが深くなりつつある」という部分、委員Cの「多くの講座は市民の共通の関心に対応している」という肯定的表現を意識して書いています。そして課題として、皆さんの意見を概して言えることとして「学習が地域課題を解決する実践にどう結びついているのか」という情報が不十分である。情報を集約するシステムがない」ということが書かれていますから、そのような趣旨でコメントを作りました。そして、委員Cの意見で「子どもの貧困」が触れられていて、社会教育・生涯学習の場での学びだけでは解決できない課題の分かりやすい事例ですから、それにふさわしい領域の組織、団体、部署等と協力しながらやるのが必要だということです。最後に、やや複雑な言い方ですが、「立川市全体の地域課題と学習館等を単位とする各地域の課題」というのは、委員Cの「地域課題には2つの意味がある」という趣旨の意見を言い換えて表現しました。学習を実践に繋げていくしくみづくりが必要だというトーンで皆さんの提案が来ていますから、評価できる部分がある一方で、もう一歩先に進むにはこういうことが必要だろう、という形でまとめています。いかがでしょうか。

（委員C）柴崎学習館や市民交流大学は、もっと大きな課題にも取り組んでいます。「地域課題」という言葉は、地域に住んでいる人々が何かを知りたいこと、というように考えていかないと、本当に地域が狭められていく感じがして、もっと広い意味もあるということを強調したいという意図があって意見を出しました。

（委員E）委員Cの意見に賛成です。その地域特有の課題でなければ地域課題ではない、という考え方は違いただろうと。立川市のあちこちの地域で共通する地域課題というもまたあるのだらうと思います。例えば「子どもの貧困」ということに関して、西砂学習館が児童館と連携して子どもを巻き込んだ事業を行っていて、他の施設と連携して子どもの課題を解決する取り組みがあるようです。砂川学習館では対照的に、取り組みはあっても子どもがあまり来ない。課題ごとにどう取り組んでいくかという集約がされていない点は、会長のコメント案のとおりだと思います。もちろんすべての課題にすべての学習館が同様に取り組むことは不可能ですので、（課題が）集約されていると色々なところで色々な努力が

されていることが分かるようになると思います。

(会 長)「地域課題の共有化」というキーワードがあることによって、「地域」というものを狭く捉えて、学習館ごとに考えることが前提で意見が出されている気がしました。(コメント案でも)各学習館を主語にして書いています。ですから「地域課題の解決」が各学習館での取り組みだけの話なのかどうかという問題があります。(地域課題といっても)立川市全体で考えて取り組まなければならない課題と、地域に住む人々一人ひとりの問題を一緒に考えて解決していく課題とは、違うのではないか。これは確かにそうで、「SDGs」という言葉があって、世界レベルで2030年までに解決しなければならない共通課題17ターゲット、169ゴール(解決目標)を国連が設定し、世界の国々は協力して頑張ろうと宣言しています。何が言いたいかというと、地域の課題は、世界の課題でもあると。例えば一人ひとりの問題を皆で解決しようとしたときに、まず地域の支え合いの中で解決できるものがある。それではすまない場合は、市の制度や施策を使って解決するものがある。市でも解決できなければ、都や国といった枠組みに広がったり繋がったりすることは確かにあるわけですが、これをどのように(進捗評価コメントに)言い換えていくかが難しい。現在のコメント案の表現について、もう少し検討したいと思います。

(委員C)「地域」を取ってしまう方がいいのかもしれない。

(委員H)私は逆に、まず「市全体の地域課題」という発想で、生涯学習推進計画を立てた時からそう捉えていました。学習館ごとが地域課題であり、他はそうではないというのはちょっと違うと思います。

(委員C)分かりました。であれば撤回します。

(会 長)いずれにしても、表現がこなれない部分がありますので、また考えます。

それでは、I-3-①「参加しやすいしくみづくりの推進」について事務局は説明をお願いします。

(事務局・管理係長)(資料読み上げ)

(会 長)まず委員Fの「成功事例の共有と活用ができれば、更にすそ野を広げていける」というところや、委員Cの「ママさんやパパさんを対象とした講座に様々な工夫が凝らされていて好感が持てる」という話、委員Gの中央大学のサークルとの連携の話、委員Hの「多様な市民が参加できる機会をつくれている」という話を意識して、基本的にはよくやっている、という評価としています。ただし、そこで終わらせずより発展させるためにはどうすればよいかということ、皆さんが課題として指摘している内容を意識して後半に書きました。つまり、学習というのは、講座への参加を含めて、課題解決の入口でしかないのだということだと思います。参加しただけでは、課題は解決しない場合が多いでしょう。学習に関わることを入口にして、そこから更に学習を発展させていくことで(課題解決の)実践に繋げていく、そういう仕組みづくりがもう少し考えられなければいけません。その意味で、会場の問題、とりわけ働いている人々を意識したときに、週末や夜間は会場の制約を超えて積極的に(学習活動が)行えるようにしないといけません。また、入口と言ったのは、学習そのものも色々なレ

ベルの学習があつて、受講者が主体的に学習を自ら作り上げていくという学習プログラムも理論上は存在していて、そういうことを意識しながら発展させていくことが必要です。そういう意味では、行政の縦割りの構造に制約されてなかなか連携が進まないという問題を解決する必要がある、という内容にまとめました。

(委員C) 当事者を「学習者」から「実践者」・「組織者」へと変える学習プログラムの充実、という部分は、例えばダンスをやっている人は、学習館に来てダンスをやるだけで意味があることだと私は思うのですが、ここの表現を見ると、学習者から実践者や組織者にならないといけないというように受け取れます。学習者の中から一部でも実践者や組織者が出ればよいという考え方に立たないと、普通の市民がやっていることは意味がないというように受け取れてしまいます。ここは直せないでしょうか。皆が実践者や組織者になっていく前提だ、ということではないと思うのですが。

(会 長) 学習の構造というものがあつて、例えば「自分が楽しいからやる」という学びは当然あつてよいわけですが、そのような広い裾野があつた上で、それをやりつつ「この楽しみを他の人に共有したい」、つまり目指されているのは「自分の楽しみを皆の楽しみに」ということなのですね。そのプロセスの中で地域の繋がりが深まって、そして地域の様々な課題が解決していく。このようなイメージなので、逆に委員Cがおっしゃったように「一部の人だけが組織者になればよい」というようには捉えないのです。潜在的には、皆が学習者、皆が実践者、皆が組織者になれる条件があつて、それを意識してやっていくことが大事なのだという考え方なのです。言い方が難しいのですが、いつも一人ひとりの学びや楽しみが地域全体に開かれているというか。目的は簡単で、一人ひとりがいきいきと学んでいる姿は皆にいい影響を与えるんですね。そうすると、今まで学ぶ機会に恵まれなかった人を巻き込みながら行く可能性があります。そういうわけで、表現の検討はしますが、一部の人だけが実践者や組織者になればよいとは考えていません。

(委員C) そうしたら、「実践者」「組織者」という形容がなじまないと感じます。

(会 長) これは「当事者」を主語にしたからこうなっているのかもしれませんが。全ての人は色々な課題の当事者なわけで、それを学習するところから始まるけれど、最終的には課題解決の主体になるということが目指されているので、それをどう表現するかですね。考えておきたいと思います。

次に I-3-②「学びに関わる市民や組織の連携と調整」 について説明をお願いします。

(事務局・管理係長) (資料読み上げ)

(会 長) この項目については、皆さんから課題点の指摘が多いようです。市民交流大学を中心に仕組みづくりが進んでいることは評価してよいと思いました。とはいえ、色々な組織がありますが、PDCA サイクルの中で、その組織が何を担っているのかが少し曖昧です。それぞれの組織の役割を調整すべきではないか、ということ（コメント案で）指摘しています。ここでは委員Cの「市民推進委員

が調査に加われないのか」という記述についても意識したつもりです。それから、委員Fの意見で「モチベーション」という言葉がありましたが、組織をいくら作っても、それを担う市民や職員にやる気がないと機能しません。モチベーションを上げるために何が必要なのかを、目に見える形にする必要があります。「見える形にする」というのは、委員Aのいう「報告書の提出」等を含めて表現しています。

(委員E) 庁内調整委員会(を含む各組織)の連絡調整の仕方に不明瞭さがあるとのことですが、うまく表現できないのですが、各組織でこれを共通してやっていこうという行動目標が見えてこないと感じることがあります。例えば、立川市では生ごみ減量の取り組みを行っていて、講座も打っていますが、これを市民団体がどのように取り上げるかということを工夫する場があってよいのではと思います。私自身、どうすれば解決するかは分からないのですが。

(会長) 委員Eのご発言とコメント案は重なる部分があると思いますが、コメント案で挙げた4組織だけではないわけですね。他にも色々な組織がPDCAサイクル内に入ってこなければいけないのですが、大まかに見ると、この生涯審は「計画(P)」と「評価(C)」の部分に大きなウェイトを持っていると思います。ここで講座などをやっているわけではないので、だからこそ進捗評価を行っているわけです。では他の組織、市民推進委員会等が「実行(D)」しかしていないのかというと、フィードバックはしているはず。「評価(C)」には自己評価や第三者評価などがありますが、生涯審は第三者評価にあたると思います。庁内調整委員会については、これがどれだけ機能するかがたちかわ市民交流大学の大きな鍵ですが、(今生涯審で行っているのは)単年度評価ですので、ここでは書ききれません。我々の次の任期では、次期生涯学習推進計画の策定に向けた検討が始まると思いますが、そのときには、既存の組織の役割の見直しについてもう少し踏み込んだ議論をし、提案しなければならないと思っています。今回のコメントでは明確な結論を出さない言い方にしていますが、大きな問題があることを意識しておくべきだと思います。

今回のように、この場でコメント案に意見していただくのは難しいかもしれません。残りの項目については、案文を作成し皆さんに送付する予定です。今回は前半の項目、次回(第4回生涯審)は後半の項目を議論し、最後(第5回)では全体を通して確認することを考えています。前半の項目で修正したいことがあれば、次回ご発言ください。

(3) 諮問に対する答申について

(会長) 繰り返しになりますが、諮問は「『学社一体』へ向けた取り組みにおける地域学習館のあり方について」です。「学社一体」の考え方を前提に、地域学習館がどのような役割を果たすべきなのか、ということだと思います。答申にあたり、第一小学校の視察を行いました。皆さんから感想やご意見を伺えますか。

(事務局・管理係長) 感想を発言する代表者を委員Cにお願いしました。

(委員C) 10月12日(木)は副校長の案内で学校中を回ったのですが、特徴的なのは、

各教室に仕切りがないということです。空間に余裕がありました。かなりの時間を施設の見学に割きました。施設の立派さには感激しました。柴崎学習館との関係について、複合施設としてどのような配慮をし、どのようなメリット・デメリットがあるか伺いましたが、学校側としては「児童の安全確保」が第一に来てしまうということで、「学校が学習館に求めていること」は、具体的には出てこなかった気がします。一小には学習館だけでなく、図書館や学童保育所も入っていて、四者協議の場もあるようですが、連携の具体的な取り組みは、学校からは出てこなかった印象です。

翌日は柴崎学習館を中心に回りました。学習館と一小が最も接している場所は3階で、学校棟に陶芸室があります。陶芸釜は学習館と学校が共有して使用しているということです。ここが児童と学習館利用者が接触する可能性がある場所です。学校棟の3階から学習館棟2階の体育館に行くために渡り廊下を通るのですが、そこに警備員がいて、学校に不審者が入らないようにしているということです。

柴崎学習館係長の話では、交流というと、学習館まつりに柴子連として一小の児童が来るとか、児童が描いた絵を展示するといったことをしているようです。また、運動会など学校行事と学習館行事がぶつからないように日程調整するのが大変だということです。交流という意味ではなかなかできないな、これからだなという印象です。私が関わっている団体（サークル）が、学習館を通さずに学校から連携の話を持ちかけられたことがあります。世代間交流という意味では、このような連携が進むとよいと思います。

(副会長) ガードが堅いですよね。正門のセキュリティはとてもしっかりなので、一般市民が簡単に入れる他の学校とは違うと感じました。カリフォルニア（サンバーナディノ市）の学校を視察したことがあります。教室の仕切りがないところなど、似ている部分があると感じ、同じような教育が一小でもできたらよいなと思いました。あれだけ立派な施設を作ったのですから。ガードの堅さを考えると、学校としての親しみはいまいちだと思います。

(会 長) 視察に参加された方は一言ずつお願いします。

(委員H) 柴崎学習館を月に1、2回利用しますが、(3階渡り廊下前に、関係者以外が行き来できないように)壁がありまして、今回の視察で一小側から初めて見ました。「ガードが堅い」という認識は前々から持っていましたが、壁の裏側(一小側)に警備員が立っているとは知りませんでした。複合施設化したら色々な化学反応が起きるだろうと思っていましたが、実態はそうではないらしいと。複合施設というよりは隣接共用施設、つまり違う施設であるかのような印象でした。副校長のおっしゃっていた「アクションを意図的に起こさないと連携は進まない」という言葉が印象に残っています。「意図的なアクションは学習館からはできない、学校からできない」というニュアンスの話もありました。問題意識は双方とも持っていて、進んでいないという認識もあって、しかしどういふふうに進めればよいかというとお手上げ状態なのかなという感じを受けました。課題は非常に重大です。

- (委員 G) 最初は交流がたくさんあるのかなと思っていました。学習館で展示会をしたことがあります、学習館に子どもの姿が全くない。不思議だなと思っていましたが、行き来は絶対にさせないというガードマン（の存在）ですよ。これはもったいないと思いました。図書館も（学校図書室と市民図書館を）共同で使っているという説明の割には、ドアが閉められていて行き来できない。土足の関係もあるのでという説明もありましたが、「絶対に部外者を入れない」という姿勢を強く感じました。施設同士を繋げている意味が分からないと思うくらい何の交流もないようでした。中はとても素敵で、子や孫を通わせたいくらい素晴らしいですが、交流がないことや、施設を使いこなせていないことはもったいない。もっと開かれた学校であればよいのにと感じました。
- (委員 A) 地域の学校と言っている割には、やはり「ガードが堅い」という部分が気になります。正門の反対側のグラウンドからはすっと入れるのですが、正門は鍵がかかっていてすぐには入れない。一般の人が行き来できないような周りの環境があったような気がしました。それと私は渡り廊下の壁やガードマンの存在を初めて知りましたが、それらは本当に必要なのかなと思いました。学校の中は迷路のようで、災害時はどうするのか気になりました。
- (委員 D) 皆さんのおっしゃるとおり、セキュリティのすごさを改めて感じました。柴崎学習館係長は「学習館は待っている」と、こちらから仕掛けるのではなく待っているのだと話していたのですが、学校のカリキュラムが多様すぎて、学習館との連携を考える余裕がないのだろうと感じたので、カリキュラムを作る段階から、四者協議などを活用して、できれば学校が市民活動団体にダイレクトにアプローチするのではなくて、学習館職員がコーディネーターの役割を持てる、学校も楽だろうし、団体の活動の幅も広がるのかなと。計画を立てた後に何かやりましょう、ではなく、もっと早い段階から一緒になって考えましょう、となるとよいと思います。セキュリティ面の課題は分かりませんが、こうでもない、忙しい学校が学習館との連携を求めてこないと思いました。
- (委員 F) 2つの施設をハード的に融合させた結果、設備面の課題に大量の人的費などのリソースが割かれていて、そこで手一杯という状況でした。一小サイドがデザインに拘りすぎているようで、直感的な使いやすさがないという状況でした。学習館サイドは、学校と比べれば通常の施設だとは思いましたが、意匠を凝らした部分が仇になっているところも見受けられました。設備面の話が大半でした。視察の結果、答申としてはネガティブなものになるのではないかという危惧がありますが、大きな意識改革が学校と学習館の双方に必要だろうという気がしています。学習館側は待っているという話がありましたが、生涯学習のゴールとは循環的な学習社会の形成ということで、次の世代に還元していくような社会の形を目指すというところで、やはり学校サイドとの連携は、行政に任せきりではなく、市民からも積極的に動かないといけないと思いました。学校サイドは、学習館も学校の施設であるというくらいの意識でないと何も言えないのではということ、非常に強く感じました。
- (副会長) 渡り廊下で繋がっている施設で、災害時の避難所運営はどのようにするのかと

尋ねたところ、四者協議の場で話をしているということでした。

(委員 E) 極めてもったいないなという印象を持ちました。色々な技能を持っている方々と子どもたちがうまく接することができれば双方にとってよいのではないかと。視察時に学習館のホールでサークルが展示会をしていましたが、私だったら、児童に「学習館で展示会をしているから、渡り廊下を通して展示を見て帰りなさい」と。そういう方針を出せば、授業時間を割くこともなく連携ができる。学校の安全が脅かされるということもないだろうと思います。これだけでうまくいくという単純なものではないことは分かりますが、それぞれの教育資源をどう生かすかという発想を持たないと、ただ面倒だとか手間だということが先に立ってしまうと思います。例えばサークルに年1回は子どもたちと関わることを計画してくださいと呼びかければ、1つか2つの団体が乗るかもしれません。学校の方も、放課後子ども教室やクラブ活動等で連携の可能性がないわけではないと思います。学校支援コーディネーターも配置されています。仕掛ける考え方、関わってみようという方針を双方が持たないと、自然発生的には難しいと思います。

(副会長) 学校支援コーディネーターという形で、砂川学習館とこんぴら橋会館と上砂会館で、サークル活動をやっている3つの団体をお願いして、中学校に入ってもらっています。生け花や手芸などが人気でした。そうしたコーディネートができる人が学習館にいたらよいと思いました。

(会長) 学校の先生は2、3年で異動してしまいますので、先生と地域との関わりも一つのポイントだと思います。

(事務局・管理係長) 私から事務連絡です。当日、渡り廊下の警備員の人件費を知りたいという問い合わせがありました。生涯学習推進センターの予算でシルバー人材センターに委託しているのですが、学習館管理業務を含めた契約額しか把握していないため、問合せました。シルバー人材センター職員が計算中です。

(会長) 時間を過ぎていきますので、本日の議論を踏まえて答申案を作成します。事務局は、立川市内で学校と学習館が交流している良い事例を調べておいてください。ハード面に良い条件があるのに、それが逆に仇となって壁を高くしているというのが一小のパターンのようですが、もっと敷居が低くて、部分的にであれうまく交流しているケースがあれば教えてください。

5. その他